

令和5年度第2回伝国の杜運営協議会議事録

1 日時 令和6年1月18日(木) 午後3時～午後5時00分

2 場所 置賜文化ホール 第1、第2楽屋

3 出席者

(委員) 8名出席

井家 勝己 地主 忠亮 新井 千香代 鈴木 和賀子
近藤 里美 永井 学 高野 正雄 山村 洋子

(事務局) 9名

種村 信次 島津 眞一 渡部 洋己 花田 美穂 阿部 哲人
安部 理絵 寒河江 大輔 小松 史織 鈴木 里津

4 開会

5 あいさつ(理事長)

博物館の令和5年4月から12月までの利用者数は81,460人、前年度比96.9%、置賜文化ホールは33,863人、前年度比117.6%という結果であった。特に博物館の利用者数は、前年度まではコロナ禍から回復傾向にあったが、今年はわずかではあるが減少に転じている。新聞の記事によると全国の博物館の利用者数は、コロナ禍前と比べて13.4%も減少しており、人々の行動に変化があることが窺える。

伝国の杜の建設の契機は、洛中洛外図屏風等の上杉家所有の宝物の寄贈を受けたことである。そのため、博物館においては、上杉家や米沢藩の歴史等を掘り下げて展示することを基本としている。多くの人材を輩出してきた米沢の歴史を、常に新しい視点から紹介することで、市民や観光客、または研究者から高い関心と魅力を感じて頂けると考えている。また、展示を通して、米沢の歴史を次世代に引き継いでいくことで、伝国の杜の継続的な価値を高めることが出来る。来年度に向け、博物館だけでなく運営している施設一つ一つの質を高め、ニーズに合う運営を行い、来館者に愛され、市民が誇りを持てるような施設になれるよう運営に努めていきたい。

本日も委員の皆様からご意見を頂戴し、よりよい運営に務めていきたいと考えており、様々ご意見を願います。

6 会長あいさつ

先日開催された「山響ユアタウンコンサート」は、素晴らしいコンサートであった。日頃よりこのような魅力的な催しを企画して頂き感謝申し上げたい。本日も、委員の皆様から多く意見を頂き、伝国の杜のより良い運営に繋げていきたい。

7 報告

(1) 令和5年度(4月～12月)の事業実施状況について

概略について事務局から説明。

(委員) 今年の展示は、放送中又は放送予定の大河ドラマの内容とリンクしているものがあり、良いと感じたが、展示内容は大河ドラマの内容などを加味しながら決めることはできるのか。

(事務局) 博物館の展示スケジュールは、おおまかに5年分まとめて決めることになっている。今年春の展示「上杉景勝と関ヶ原合戦」については、景勝没後400年の節目に合わせてテーマを設定している。そのため、大河ドラマの内容やその他関連事業と内容を合わせることはその時々状況によるため、難しい。

(委員) 来年度から先5年分の展示スケジュールも決まっているのか。

(事務局) 令和6年度から令和10年度の展示計画については既に大まかに決まっている。展覧会を行うためには史料の借用や構成の検討などの準備に時間がかかるため、先にスケジュールを決めてそれに沿って行っている。そのような背景もあるため、例えば来年度の大河ドラマが米沢に関わる内容であるとしても、その内容に差し替えるのは難しい。

(委員) 児童・生徒の利用促進について、「観覧証利用実績」という記載があるが、この観覧証というのは学校に事前に何枚か配布しておき、自由に生徒が使用できるような仕組みであるのか。

(事務局) 観覧証は各学校に配布しているが、毎年配布しているわけではなく、数年前に一度配布したもの。時間の経過もあり、利用実績が上がらない一因となっている。改めて、観覧証があるということを学校に周知して利用促進に繋がりたいと考える。

(委員) 学校で継続的に使用できるように配布しているということか。

(事務局) そういうことである。

(事務局) 一般的に学校は、学級や学年で来館することが多く、その場合、市内の学校は入館料減免対象となるため、観覧証は必要無い。個人や少人数グループの調べものなどで利用する際に観覧証を使用して頂く形になっている。そのため、学校としては使用する機会はあまり無い。市の方針として、生徒の博物館利用を促進するため観覧証を配布している。

- (委員) せっかく観覧証があるので、是非、利用促進を図って頂きたい。
- (委員) 資料の観覧証利用実績の下に「小中学生の入館料を無料とした展示の開催」の小中学生の入館者数が1,606人と記載されているが、観覧証の利用数とはどう関わる数字なのか。
- (事務局) この数字は、小中学生の入館料を無料とした「上杉景勝と関ヶ原合戦」展の小中学生の入館者数である。また、先日まで開催していた「学んで、旅して、たのしむ浮世絵～広重美術館コレクション～」では中学校の美術の授業の一環として、生徒に展示を観覧して頂いた。この場合も観覧証は不要で減免しており、学校と連携し利用して頂いている。
- (委員) 学校の教育課程の中で、学年や学級単位での利用が多く、観覧証の利用促進は出来なかったと考える。また、博物館に近い学校ではYCWや授業の一環や課題として展示を観覧し、博物館利用の促進に繋がっていると考える。
- (委員) 先日、「学んで、旅して、たのしむ浮世絵～広重美術館コレクション～」を見学した際に、米沢四中の生徒がプリントを提出する箱が設置してあり、良い取り組みだと感じた。この米沢四中生の利用数は、資料でいうとどの箇所に計上されているのか。また、どのような背景で実施されたのか。
- (事務局) 博物館開館準備段階から、小中学校の美術科の先生と研究会を継続して行っており、小中学校の美術科の先生を「Museum Assistant Teachers (通称:MAT)」と呼び、特別卒のサポーターとして連携を図っている。その連携の中で、展覧会や内覧会の案内を行っている。当館の美術展示は、現物が観覧できる貴重な機会であるため、特に中学校の美術において、意識的に博物館を利用して頂いている。また、展示内容の授業の取り入れ方をご紹介し、先生方からも提案をして頂くなど、共に協力し、授業のワークシートなどのプログラムを構築している。今回の米沢四中との連携もこのような背景により、実現したものである。このように授業の一環として観覧を利用する際は、教育委員会に減免申請を提出して頂き、無料で利用できるようになっている。先ほどの観覧証については、あくまでも個人グループで利用するものであるため、用途によって使い分けして頂くことになっている。
- (委員) 今回の米沢四中との取り組みは、美術の展示に関心が高い生徒が観覧しているのか。
- (事務局) 今回は、学校全体での取組になっている。事前に減免申請を頂き、ワークシートを生徒に配布した。シートを博物館に持参すると入館の印として、浮世絵に関する専用のスタンプを押すようにして管理していた。

(事務局) この米沢四中生の入館者数については、資料に記載している当該展覧会の入館者数の中に含まれており、入館者数は388名であった。

(委員) 今説明があった学校との取り組みについて、資料には項目がないため、今後一つの項目として資料に記載してはどうか。

(事務局) 今後の資料作成する際には、項目として追加したい。

(委員) 資料のP14「事業告知、情報発信による施設利用の促進」について、LINEは見る機会が多い媒体であるため、利用促進を図ってみてはどうか。米沢市の公式LINEを使用しており、直接運用していないため、タイムラグがあることで、発信件数が上がらなかったとのことだが、LINEに情報を流す時はどのような手順で依頼しているのか。

(事務局) 事業ごとに個別に原稿を作り、教育委員会を通じて担当部署に依頼している。改めて、発信回数が少ないと認識したので、追加の発信も視野に入れながら利用促進を図っていききたい。

(2) 指定管理期間(令和6年度～令和10年度)の展示計画の概要
概略について事務局から説明。

8 意見交換

(1) 令和6年度事業計画評価指標の設定(案)について

概略について事務局から説明。

(委員) 評価指標の資料は、令和4年度の実績が記載してあるが、この事業計画は2ヶ年計画なのか。

(事務局) 令和5年度の実績は、まだ年度途中であり出ていない。設定する数値が適正であるか比較するために、直近の令和4年度の実績を参考として記載している。

(委員) 令和5年度の実績はどのように反映されるのか。

(事務局) 今年度の実績が出るのが次年度前半になるため、それから次年度の計画評価指標を立てるのでは遅くなる。そのため、直近の実績を元に評価指標を立てるようにしているので、令和7年度の計画を策定する際に、令和4年と5年の実績を参考にする。

(2) 令和6年度事業計画（展示関係・ホール自主事業）（案）について

概略について事務局から説明。

(委員) こども狂言クラブの人数と楽器クリニックを受講している人数は、どのくらいなのか。

(事務局) こども狂言クラブの継続した受講者は、8名で、東京からプロの講師1名を招いて月に1回指導をして頂いている。楽器クリニックは、計12名受講しており、講師は3名の方をお願いしている。月に約1回2時間程度のレッスンを行っている。今年度は3月に楽器クリニックの成果発表会と狂言クラブの成果発表会を行う予定である。

(委員) 素晴らしい舞台とホールを一般の方に使用してもらうことは、使用者のためになり、文化の伝承にも繋がるため、引き続き内容の充実を含め、取り組んでもらいたい。

(委員) 楽器クリニックを受講する方はどのような方なのか。

(事務局) 部活動の一環で講師の指導を受ける際は、別途依頼してもらい講師が学校で指導すべきだと考えており、部活動で楽器をしている学生は、対象外としている。基本的に、社会人の方を対象としており、今までクラリネットを練習していたが、今度は別の楽器を習得したい方や、独学で楽器を楽しんでいたがプロの方に教わる経験がしたいという方が受講している。

(委員) 社会人になるとなかなか楽器を教えてもらう機会がないため、素晴らしい機会である。

(委員) 令和6年度置賜文化ホール自主事業のNO.1「PRO WiND 023」の公演日は市内の高校の定期演奏会と日と重なっているようだが、集客は大丈夫か。

(事務局) 毎年、興譲館高等学校吹奏楽研究クラブがこの日に定期演奏会を行っているが、在校生向けの演奏会であるという点から、同じ日に公演をすることに了承頂いている。計画段階で、公演日が重なることを懸念し、プログラム内容を違うものにし、料金設定を比較的高く設定するなど、差別化を図った。「PRO WiND023」には、県外在住のメンバーもいるため、前日に山形公演を山形市で設定し、続けて米沢公演を設定した。「PRO WiND023」には昨年アンサンブル編成で公演を行って頂き、好評であったため、今回は大編成として公演をしたいと考えている。

(委員) この演奏会はどちらかというと部活で吹奏楽をやっている学生向けであると考えていた。同じ日に1つの高校の演奏会があるだけなので、全ての観客がそちらに流れるとは考えにくいですが、この公演自体はどの世代向けの内容なのか。

- (事務局) 大人が楽しめる内容である。置賜の吹奏楽人口の減少により、コンクールでの編成は、大編成を組める団体が少なくなっている。そのような背景を踏まえ、吹奏楽文化を絶やさないために「フレキシブル編成」として大編成や小編成にこだわらず、吹奏楽を楽しんで頂けるような内容を考えている。
- (委員) 伝国の杜の X を毎日確認しているが、日々情報発信をされており来館したくなるので、SNS の発信は引き続き力を入れてほしい。また、先日開催されていた「上杉氏と国絵図の世界」で大きい絵図を観覧したが、展示物の見所などが分かる説明があるとよい。
- (事務局) SNS の発信の仕方は、幅広い層に興味を持って貰えるように専門的な部分をより深めた内容の投稿や、逆に誰にでも分かりやすいようにかみ砕いた内容の投稿など様々工夫をしていきたい。
- (委員) 先日、テレビ番組で、作品の細かい見所等を紹介している場面があり、非常に興味深く感じた。このように、展示の細かい見所等を紹介して頂けると、展示品の魅力がもっと引き出せるのではないか。
- (委員) 伝国の杜の X では、展覧会の情報やお知らせがすぐポストされていると感じる。以前、東根市の施設の展示広告をテレビやラジオで多く流していた。経費の問題もあるかと思うが、広告を多く流せば良いのではないか。また、浮世絵展開催時に太田記念美術館の浮世絵についてのテレビ番組を見て、興味を持ち、実際に実物を見に行った。来年の大河ドラマも浮世絵に関する題材であるため、とてもタイムリーな展覧会であったと思うし、タイトルの「学んで、旅して、たのしむ浮世絵」という通り、興味を持ち、旅して浮世絵を見に行ったので、良いきっかけになった。また、能楽の祭典を見に行ったのだが、内容が分からないため何かしらの形で解説があれば、分かりやすいのではないか。次回の 3 月の能公演ではタブレット端末の解説があるので、そのような工夫が必要ではないか。また、能楽出演者も高齢化が進んでいるため、発表の際の環境整備も必要であると思う。それに付随し、若い世代の能楽人口を増やし、育成することも大切である。そのために、こども狂言クラブの入会者の裾野を広げるように、用具の貸し出しなど協力が出来ればよい。
- (事務局) TV での広報活動については、予算の関係で配信できる数には限りがある状況である。今年度はホール事業でテレビCMを放送したが、予算の関係上、メジャーの時間帯に放送することが出来ず、効果をなかなか得られなかった。今後、広告費にかかる予算の捻出等検討していきたい。

- (事務局) 能楽の祭典については、頂いた意見を元に地元の能楽関係者と共に工夫を重ねていきたい。こども狂言クラブに関しては、現在所属している年齢層の幅が広く、小さなお子さんもいるため、指導のやり方を検討したいと考えている。着物や用具については、世代的に着付けの仕方が分からない保護者の方がいらっしゃるため、そういったところから職員で何かフォロー出来ないか考えている。
- (委員) 今、求人など、様々な情報拡散に Instagram が多く利用されている。LINE だけではなく、Instagram も利用してはどうか。
- (事務局) 公式LINE に関しては、月に発信する件数により有料になるため、経費の問題もあり、公式LINE を運営するのは難しい。Instagram については現在こども狂言クラブのみアカウントを運営しているため、今後伝国の杜としてのアカウント運営を経費面も含め、研究していきたい。
- (委員) 浮世絵展の開催中に情報コーナーで浮世絵の彫師の方の映像が流れていたが、観覧後に気がついた。初めて来館する方もいるため、総合窓口で一言案内があればよいと感じた。また、展示室内のパネルの説明が少し長いため、観光客など時間が無い方向けに要点をまとめた簡潔なパネルなどあれば良いのでは。博物館は、歴史や美術などの分野の展示しているため、常に様々な分野の展示を観覧することができ、ありがたく感じている。
- (委員) 大河ドラマの内容と企画展示の内容がリンクすると、来館者が増えるのではという話が先ほどあったが、大河ドラマに出演した俳優が舞台となった場所で講演を行うと反響があり、人が集まるということを聞いたことがある。米沢に関連する大河ドラマに出演した俳優を招き、展示とマッチさせて講演など企画できれば、集客に繋がるのではないかと。俳優でなくても、有名人とマッチさせた別の視点の企画が出来ればよいのでは。
- (事務局) そのような機会があれば、ありがたい。また、その場合は財団だけで行うのは難しいため、市の観光課や観光関係者と連携して行ってきたい。また、米沢観光大使の眞島秀和さんには常設展示室シアターのナレーションをお願いした。米沢市の観光部局や、米沢観光コンベンション協会等と連携し、アドバイスやアイデアを頂きながら取り組んでいきたい。
- (委員) 高校生は想像以上にフィールドワークなどの調査研究を非常に多様に行っている。その中で、米沢に様々な分野の専門的な知識を持っている方がいることや多くの資源があること自体知らない生徒が多いため、積極的に情報提供を行って頂きたい。

9 その他

(事務局) 3月に開催するホール事業の評価について説明、依頼。

以 上